

相模川の水源林を救う

生ごみと水源林がつながる

間伐材生ごみ堆肥箱



桂川・相模川流域協議会

相模原市のごみの現状と堆肥化の効果

現在、一人一日、700グラムのごみが焼却されています。そのうち、生ごみは約35%になります。そして生ごみがもたらす臭い、カラスや猫による散乱、などリスクが大きいのも生ごみです。しかし、反対に、資源と捉えた場合、最も環境に適したリスクのない価値の高いものになります。

生ごみを堆肥化して、市内の農地に有機肥料として入れ、有機栽培の農作物として、給食や消費者に提供されれば、地産地消として安全安心の高い評価がされます。

荒廃が進む水源林の現状と流域材の活用

私たちの飲む水道水は相模川の水です。現在、相模川の水源である、山梨、神奈川の山々の森が、安い外材に押されて、手入れが入らず材として切り出されずにいます。そのため、森は荒廃し、若木の更新がされず、暗い森となっています。

下草がはえず、土が剥き出しとなって、ひとたび、大雨が降ると水がしみ込まず、土砂崩れや、土砂の流出の原因となっています。そればかりか、動物たちの餌不足となり、人里へと進出してきます。そして林業に携わる人たちは高齢化し、継承者不足へと繋がっています。

このまま放置すれば、水道水の水質、水量へと影響が出てきます。これらの原因を解決するためには桂川・相模川の流域材を活用することが必要です。

流域材の活用方法として、公共建築や家づくり、学校の机や椅子などに使用されることが望ましいことです。小さな使い方として、家庭で使えるものも考えられます。その一つとして、生ごみの間伐材堆肥箱も効果的です。

生ごみのコンポストとして、エネルギーを使わず、自然に帰り、最後までごみにならない「森を救う循環型コンポスト」